

<p>書名 項目</p>	<p style="text-align: center;">新しい技術・家庭 技術分野</p> <p style="text-align: center;">未来を創る Technology</p>	<p style="text-align: center;">2 東 書</p>
<p>内 容</p>	<p><知識及び技能が習得されるようにするための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ・実験を紹介し、技術の基礎的なしくみと原理・法則等をわかりやすく解説している。 ・各ページにキーワードを載せたり、重要用語を文字で表したり、他教科との関連を示したりしており、各内容の巻末には「学習のまとめ」のページが用意され、内容で扱った知識・技能を復習できるように工夫されている。 <p><思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ・問題を発見するページでは思考を整理するために「思考ツール」を取り入れてわかりやすく、見やすくまとめている。各内容において、問題を発見し解決するために具体例を上げ、既存の学習との関わりを持たせるように「リンク」を設定している。 <p><学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ガイダンス内容が充実し、漫画による「技術の最適化」の説明で、主体的に学ぼうとする態度や身近なものを提示して生徒の興味・関心が高まるよう工夫している。また、各内容を3章に分けて学習の見通しを持てるよう構成し、「技術の匠」での活躍するエンジニアの言葉や、「自己評価」を設けて振り返りができるよう工夫している。 <p><技術と生活や社会、環境との関わりについて理解を深めるための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ・生活や社会を支える技術を取り上げ、身近な製品に使われている技術を豊富な写真と資料を用いてわかりやすく解説している。 <p><よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、適切かつ誠実に技術を工夫し創造しようとする実践的な態度を養うための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ・技術のプラス面・マイナス面を多角的に考えられるような内容となっている。 ・「環境」や「消費者」のマークをつけ技術を評価する視点を与えている。 	
<p>資 料</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・国立競技場の写真やグラフのデータが新しいものが多く、資料欄を設けて学習を深められるよう工夫している。 ・末尾にプログラミング手帳で3種類のプログラミング言語がまとめられており、切り離せるように工夫されている。 	
<p>表記・表現</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学習指導要領に示された学びの過程を重視したページの構成となっている。 ・マークを用いて、図や資料等に見方・考え方の視点を与えている。 ・表紙の裏に目次があり学習するページを探しやすい。 ・柔らかさを感じる色使いで落ち着いて学習に取り組める。 	
<p>総 括</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・各内容を3章に分け、学習の見通しが持てるようにしてある。 ・学習のまとめにも図や写真が使用されており、生徒が取り組みやすくなっている。 ・DマークのQRコードの内容が充実している。 ・SDGsについてわかりやすい説明があり、自分なりのゴールを目指しやすい。 	

<p>書名</p> <p>項目</p>	<p style="text-align: center;">New 技術・家庭 技術分野</p> <p style="text-align: center;">明日を創造する（技術ハンドブック）</p>	<p style="text-align: center;">6</p> <p style="text-align: center;">教 図</p>
<p>内 容</p>	<p><知識及び技能が習得されるようにするための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ・練習題材を用いて、基礎的な知識・技術を習得できる構成となっている。 ・写真や図などを豊富に使い、学習の目当てやキーワードをページ左上に載せている。 ・重要用語を太字で表したり、学習の見通しをもたせたりしている。別冊で「実習・技術ハンドブック」を添付し、実習のポイントをまとめてある。 <p><思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ・「リンク」の記号を用いて、既存の学習との関わりを持たせるよう設定している。 ・第2章まとめのページに思考・判断・表現の問題が用意してある。 <p><学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ・各内容小題材の終わりに、学習を振り返る見出しを入れ、学びを確認できるようにしている。「技ビト欄」では各内容に関わる開発者を取り上げ、ものづくりへの思いや中学生に向けたアドバイスを載せており興味・関心が高まる。 ・「つくってみよう」は作業手順や作業方法が写真付きで示されておりわかりやすい。 <p><技術と生活や社会、環境との関わりについて理解を深めるための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ・「環境」や「消費者」のマークをつけ技術の基礎的な理解と多様な見方・考え方に気づくように構成し、「技ヒト」のコーナーでは、様々な仕事に関わっている方の名前や顔写真付きで、ものづくりへの思いが紹介されている。 <p><よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、適切かつ誠実に技術を工夫し創造しようとする実践的な態度を養うための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ・「技術の上手な使い方」「環境や安全に配慮した誠実なものづくり」ページにおいて図やグラフなどを用いて、持続可能な社会の構築に向けたまとめを取り扱っている。 ・安全マークを確認することにより注意しながら作業を進めることができる。 	
<p>資 料</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・別冊で「実習・技術ハンドブック」を添付しており、実習のポイントをまとめてある。 ・ハンドブックに工具の使用方法や作業の要点がまとめられており非常に便利である。 ・設計計画表が付属しており、スムーズな流れで授業が進められて有効である。 	
<p>表記・表現</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学習指導要領に示された学びの過程を重視したページ構成となっている。 ・マークを用いて、図や資料等に見方・考え方の視点を与えている。 ・リンクで他学年・他教科との関連がわかりやすくなっている。 ・重要な言葉は太字でカラーとなっておりポイントがわかりやすい。 	
<p>総 括</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・QRコードを読み取ることで基礎的な知識・技能を簡単に得ることができる。 ・まとめのページでは、自らの学習を振り返り理解度を確認できる問題が用意されている。また、内容のまとめが、評価の観点ごとに示されており自己評価がしやすくなっている。 	

<p>書名 項目</p>	<p style="text-align: center;">技術・家庭 技術分野</p> <p style="text-align: center;">テクノロジーに希望をのせて</p>	<p style="text-align: center;">9 開隆堂</p>
<p>内 容</p>	<p><知識及び技能が習得されるようにするための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習の目標を提示し見通しを持たせ図や写真で技術への興味・関心を高めている。 ・各ページの右上隅に工具名と写真があり、下部に豆知識が書かれているなど、幅広い知識の習得や技能の向上に役立つ工夫がある。 <p><思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ・探求の欄や写真を用いて、問題の発見から解決の流れをわかりやすく表している。 ・普段の生活と社会でのものづくりを結びつけて考えられるよう工夫し、思考しながら学習に取り組めるようイラストや写真の配置がされている。 <p><学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ・目標をわかりやすく示し、題材との関連が深い学習内容を取り上げている。 ・学習の流れが漫画で描かれているため、自ら進んで読み、理解できるようになっている。また、案内してくれるイラストの4人の人物に個性があり、それぞれの性格に応じた発言や問いかけたりするところが生徒の興味を高める。 <p><技術と生活や社会、環境との関わりについて理解を深めるための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ガイダンスに身近なもののしくみや原理、工夫などが多く示されており学習意欲が高まり、「環境」のマークを用いて技術の基礎的な理解と多様な見方・考え方に気づく構成となっている。 <p><よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、適切かつ誠実に技術を工夫し創造しようとする実践的な態度を養うための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習の振り返りをするページの後に技術のまとめを行う構成となっている。 	
<p>資 料</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・様々なマークが工夫されわかりやすく、写真も見やすい。 ・巻末に日本各地の伝統的な技・材料・工芸マップが付属しており、日本のものづくりへの誇りを感じられる。 ・QRコードを掲載し、教科書の内容のコンテンツを参照することができる。 ・デジタル教科書・教材は、授業者の工夫次第で大きな効果が得られる。 	
<p>表記・表現</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・見やすいフォントカラーを使っている。 ・鮮やかな写真とわかりやすいイラストや図の組み合わせがよく、とても見やすい。 ・振り返り評価を2～3個に絞り簡単に記入しやすいよう工夫している。 ・落ち着いた色使いで読みやすくなっている。 	
<p>総 括</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・生活や社会を支える技術を取り上げ、身近な製品に使われている技術を豊富な写真と資料を用いてわかりやすく解説している。 ・内容ごとの学習のまとめでは、ふり返りながら理解が不十分な項目をすぐに確認でき、自己評価ができるように工夫されている。 	